

接続関係を表示する複合辞的表現

——名詞性接続成分のタイプから見た連体複文構文と連用複文構文の接点——

早稲田大学 教育・総合科学学術院 松木正恵

0 発表の流れ

- 1 はじめに（発表の目的）
- 2 複合辞概観
 - 2-1-a 複合辞の分類——機能による分類
 - 2-1-b 複合辞の分類——形態による分類
 - 2-2 複合辞的表現の広がり
- 3 複文の枠組みと複合辞的表現の位置付け
 - 3-1 前田（2009）における複文の分類
 - 3-2 連用節（副詞節・並列節）を構成する名詞派生の複合辞的表現
- 4 連用節（副詞節・並列節）と連体節（名詞修飾節・補足節）の連続性
 - 4-1 野田（2002）による節の種類と段階性
 - 4-2 節の連続性
 - 4-3 名詞修飾節のタイプと連用節（副詞節・並列節）の関係
- 5 用例の検証
 - 5-1 名詞性接続成分の捉え方
 - 5-2 相対性修飾節（相対補充）と内容節（内容補充）
- 6 問題点と今後の課題

1 はじめに

複合辞表現には、接続関係を表示して複文を構成するものが多い。最初に従来の複合辞を概観するとともに、その周辺に位置する、機能的な動詞・名詞を核とした複合辞的表現の広がりを紹介した上で、連体修飾構造の底名詞でありつつ主節に対しては接続成分として機能する「名詞性接続成分」に着目する。複文の枠組みを参照しながら、連体修飾でありながら連用修飾の機能を果たすこれらの表現の、多様な意味・機能を観察するなかで、連体複文構文と連用複文構文の接点を探っていきたい。

○複合辞、及びその周辺に位置する機能的な動詞・名詞を核とした複合辞的表現の中で、接続関係を表示して複文を構成するものを概観する。

○連体修飾構造の底名詞でありつつ主節に対しては接続成分として機能する「名詞性接続成分」（「擬似連体修飾節」）について、複文の枠組みに沿った分類を試みる。

○節の連続性の観点から“名詞修飾節→副詞節”の推移を確認した上で、名詞修飾節のタイプと副詞節の関係について仮説を提示する。

○底名詞のタイプとそれが接続成分化することで成り立つ副詞節の関係性を考慮しながら用例を検証し、問題点を抽出する。

2 複合辞概観

2-1-a 複合辞の分類——機能による分類（松木（1990））

- 複合辞——幾つかの語が複合して一まとまりの形で辞的な機能を果たす表現。複合助辞とも。
- | | | |
|--|---|--|
| { 助詞性複合辞 ¹
(複合助詞) | { | 格助詞性複合辞……として／について／によって／をはじめ／をもって 等 |
| | | 係助詞性複合辞……とは／といえ／ときたら／となると／にしても／には 等 |
| | | 副助詞性複合辞……という／とばかり(に)／ならでは／を問わず／ばかりか 等 |
| | | 接続助詞性複合辞……や否や／上で／とすると／おかげで／とはいえ／くせに 等 |
| | | 並立助詞性複合辞……といい～といい／にせよ～にせよ／(よ)うと～まいと 等 |
| | | 終助詞性複合辞……といったら／ではないか／ものか／ないかな／だって 等 |
| { 助動詞性複合辞……なければならない／はずがない／わけにはいかない／てもいい／(よ)うとする／ | { | (複合助動詞) ざるをえない／に違いない／ばいい／よりほかはない／に過ぎない／とのことだ 等 |
| | | |

¹国立国語研究所（2001）では「助詞的複合辞」「助動詞的複合辞」とされている。

2-1-b 複合辞の分類——形態による分類（松木(1990)）

- 第1種複合辞……本来「辞」である助詞・助動詞のみが二語以上複合してできた複合辞
からには／だけに／ては／とは／ばかりか／ながらに／ならでは／とばかり(に)／とやら／ないかな 等
- 第2種複合辞……本来「詞」である名詞のうち実質の意味が薄れた形式名詞を中心にして複合した複合辞
以上は／ものだから／ために／せいか／ところで／ことだ／わけがない／仕方がない 等
- 第3種複合辞……本来「詞」である動詞・形容詞のうち実質の意味が薄れた形式用言を中心にして複合した複合辞
かもしれない／といえども／からみると／によって／を問わず／でもいい 等

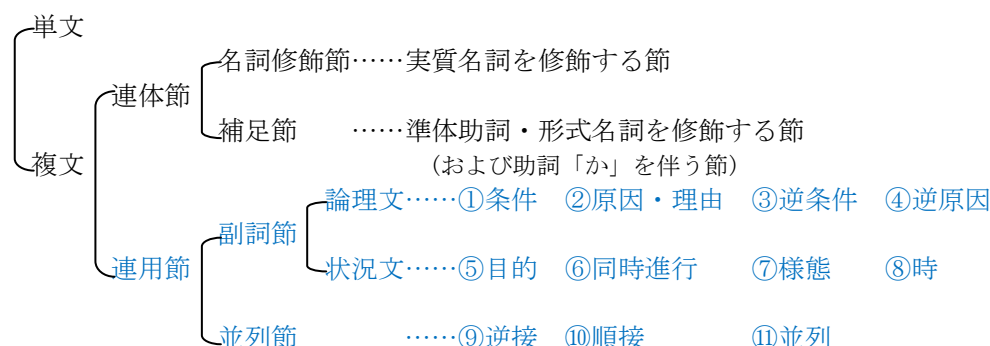
2-2 複合辞的表現の広がり——動詞・名詞の機能性に注目して（田中(2004) (2010)）

- i 動詞テ形後置詞の分類——動詞が機能性を有し後置詞を構成して様態修飾的にふるまうもの
 - I 類：文法化が進んだもので、格助詞、前置詞に相当するもの
について／にとって／に対して／に応じて／に関して／をめぐって／として／を通して／につれて 等
 - II 類：I 類に隣接したものも含め、比較的出現・使用頻度の高いもの
に向けて／を含めて／を除いて／とくらべて／と合わせて／をめざして／を踏まえて／にちなんで 等
 - III 類：II 類ほどは高くないが、しばしば出現するもの
を見計らって／に寄せて／を期して／にならって／を交えて／が災いして／が昂じて／を添えて／にまぎれて／と並んで／とあって／とみえて／につけこんで／をあとにして／をさしおいて／をこめて 等
- ii 後置詞の「萌芽的」な形態……が引き金になって／を待ちかねて／に押されて／にしびれをきらして／を決め込んで／に甘んじて／（病氣）を押して／（時代）に抗して／に輪をかけて／をなおざりにして 等
- iii < X を Y に > 形式²……を機に／をきっかけに／を境に／を節目に／を最後に／を皮切りに／を切り口に／を手掛かりに／をバネに／をもとに／を前提に／を軸に／を幸いに／を抜きに／を目的に 等
- iv 擬似的な連体節による従属接続成分³……つもりで／目的で／疑いで／方向で／以上は／ついでに／代わり(に)／通り(に)／わりに(は)／くせに／証拠に／一方(で)／反面／かたわら／がてら 等
- v モダリティに傾斜する動詞述語文……ことがある／ようになる／のが気になる／ことは避けられない／に(は)及ばない／に忍びない／に越したことはない／に決まっている／ことに変わりはない／ことを禁じる／のを覚えている／と変わらない／と言っても過言ではない／とも言い切れない 等
- vi モーダルな機能名詞による名詞述語文（文末名詞文）……この頃だ／意向だ／状況だ／感じだ／見通しだ／次第だ／道理だ／所以だ／場合ではない／柄ではない／節がある／術はない／ためしがない／運命にある／立場にある／結果に終わる／運びとなる／公算が大きい／決意を示す 等

※本発表では、以上の赤字部分のうち、「名詞性接続成分」とみなせる表現のみを対象とする。

3 複文の枠組みと複合辞的表現の位置付け

3-1 前田(2009)における複文の分類



※本発表で示す連用修飾の機能は、上の分類の青字部分を参考に行っている。

²田中(2004)では、名詞派生の後置詞的な接続成分とされている。

³田中(2004)では名詞性接続成分とされたもので、文末名詞文との連続性・移行現象にも触れられている。

○連用節（副詞節・並列節）を構成する「接続辞」⁴（前田（2009）に掲載されている表現）

- ①条件 A基本的形式……とすれば／としたら／となると／のならば／のでは／ことなら／ことには 等
B周辺の形式……場合／限り／しないことには／たが最後／した日には／次第／と思いきや 等
- ②原因・理由……から／ので／のだから／もので／からには／以上(は)／うえは／かぎりは／結果／手前／からこそ／ばこそ／だけに／だけあって／せいで／おかげで／ために／ばかりに 等
- ③逆条件……ても／としても／たつて／ようと／ところで／ようと／ようが／とはいっても／とはいえ 等
- ④逆原因……のに／けれども／ものの／ものを／ながら／にもかかわらず／くせに／にしては／わりには 等
- ⑤目的……ため(に)／ためなら／(～し)に／(～する)には／目的で／よう(に)／ようとして／べく／のに 等
- ⑥同時進行……かたがた／かたわら／がてら／いしい／つつ／とともに／ながら／にしたがって 等
- ⑦様態……くらい(に)／さまで／そうに／だけ／とおりに／～ば～ほど／まま／みたいに／わりには 等
- ⑧時……あいだ(に)／あとで／以来／うちから／かと思うと／がはやいか／現在／ごとに／際／瞬間／と同時に／たびに／てから／とき(に)／途端／途中／なり／におよんで／のち／前／までに／やいなや 等
- ⑨逆接……からといって／ところが／どころか／ながらも／(の)ならまだしも／(の)ならともかく／のを 等
- ⑩順接……あげく／うえ／うえに／きり
- ⑪並列……一方／一方で／し／～たり～たり／半面(反面)

3-2 連用節（副詞節・並列節）を構成する名詞派生の複合辞的表現（名詞性接続成分）

（上で示した前田（2009）の分類に、ここで取り上げる名詞性接続成分をあてはめたもの）

- ①条件……以上(は)／限り⁵／場合／ことなら／ことには／ところで／ことで／(ときた)日には 等
- ②原因・理由……ために／以上(は)／上は／もので／ことで／ことから／おかげで／せいで／せいか／勢いで／手前／理由で／口実で／名目で／疑いで／罪で／廉(かど)で／影響で／おおりで／関係で／事情で／よしみで／経緯で 等
- ③逆条件……ところで／場合にも／場合でも
- ④逆原因……ところが／ところを／つもりが／はずが／ものを／くせに／わりには／心づもりが 等
- ⑤目的……ために／目的で／趣旨で／ねらいで／約束で／つもりで／予定で／計画で／一心で／思いで 等
- ⑥動機・前提……一心で／思いで／覚悟で／意気込みで／条件で 等
- ⑦同時進行……かたがた⁶／かたわら(で)／一方(で)／ついでに／途中／道すがら／足で／たびに／ごとに／ところに 等
- ⑧様態……ほど(に)／通り(に)／さまで／程度に／くらい(に)／つもりで／調子で／様子で／態度で／そぶりで／格好で／しぐさで／姿勢で／足取りで／手つきで／表情で／顔(つき)で／面持ちで／目つきで／眼差しで／口調で／口ぶりで／声で／感じで／気持ちで／気分で 等
- ⑨時……とき(に)／折(に)／際(に)／頃(に)／時期に／機会に／昨今／この頃／現在／以来／瞬間(に)／そばから／最中に／あいだ(に)／間中／合間に／うち(に)／うちから／途中(に)／すきに／留守に／前(に)／以前(に)／直前(に)／間際(に)／寸前(に)／あと(で)／あと(に)／のち(に)／帰りに／直後(に)／途端(に)／矢先に／はずみに／はずみで／拍子に 等
- ⑩逆接……ところが 等
- ⑪順接……うえ(に)／あげく(に)／すえ(に)／結果／果てに／あまり／とどのつまり(が) 等
- ⑫並列・対比……一方(で)／反面／半面／一面／他方(で)／裏で／陰で 等
- ⑬反応・代償……お返しに／お礼に／恩返しに／見返りに／仕返しに／復讐に／報いで／罰に(として)／腹いせに／気晴らし(に)／証拠に／しるしに／証に／記念に／お祝いに 等
- ⑭立場・方向性……立場で／分際で／視点で／角度で／方向で／方針で／形で／範囲で／意味で 等

※緑字の分類は、前田（2009）にはなく、今回筆者が付け加えたもの

※ピンク字の表現は、「外の関係(相対的補充)」タイプになる名詞性接続成分

⁴前田(2009)は「従属的な複文のなかで、主節に対して従属する部分を導く働きをする形態素」を「接続辞」と呼び、一種の活用形から、いわゆる接続助詞、更に名詞が形式化して接続助詞的に働くものまでを含めている。

⁵イタリック体のものは、3-1で紹介した前田(2009)に掲載された接続辞と重なる表現である。

⁶下線の表現は、後に4-3-2で言及する、「⑦同時進行・⑨時」でありながら「外の関係(相対的補充)」タイプになる名詞性接続成分である。

4 連用節（副詞節・並列節）と連体節（名詞修飾節・補足節）の連続性

4-1 野田（2002）による節の種類と段階性

I 述語を拡張する節——連用節（副詞節・狭義の従属節）

- (1) このまま道なりに進めば、駅前に出るはずだ。

II 名詞に相当する節——名詞節（埋め込み節・補足節）

- (2) いつどんな場所でもぐっすり眠れるのが彼の自慢だ。

III 名詞を拡張する節——連体節（連体修飾節・関係節・名詞修飾節）

- (3) 書き終わった人から提出してかまわないそうだ。（例文は筆者）



“副詞節＞補足節＞名詞修飾節”といった段階性（文構造のどのレベルで働くかという点で）

※今後本発表で用いる用語はイタリック体で示した「副詞節」「補足節」「名詞修飾節」に統一する。

4-2 節の連続性

4-2-1 副詞節・補足節・名詞修飾節の連続性

- (4) 大型の台風が来た日、道路も鉄道也大混乱だった。⇒副詞節とも名詞修飾節ともみなせる
(5) 大型の台風が来た日は学園祭の初日だった。⇒補足節とも名詞修飾節ともみなせる

4-2-2 副詞節から名詞修飾節（非制限的用法）へ

○副詞節を用いると後件との論理関係が明確化、名詞修飾節を用いると事実の提示にとどまる。

- (6) 太郎は終電に乗り遅れたので、仕方なく家の方向を目指して歩き出した。
(7) 終電に乗り遅れた太郎は、仕方なく家の方向を目指して歩き出した。
(8) 課長はいつも時間には厳しいのに、その日に限って遅刻してきた。
(9) いつも時間には厳しい課長が、その日に限って遅刻してきた。

4-2-3 名詞修飾節から補足節へ

○名詞修飾節の底の名詞が実質名詞から形式名詞に変われば、それだけ名詞修飾節を切り離す意識が薄らぎ、底の名詞までを包括した補足節としてとらえやすくなる。

- (10) 10歳の小学生が描いた 絵／もの／の が特別賞になった。
(11) 10歳の小学生が描いた絵が特別賞になった 話／事実 には驚いた。
(12) 10歳の小学生が描いた絵が特別賞になった こと／の には驚いた。

4-2-4 名詞修飾節から副詞節へ

○名詞修飾節の底の名詞が文法化することで副詞節に傾斜していく。

- (13) AチームがBチームとの試合で出す結果によって優勝チームが決まる。
(14) Aチームが終了直前Bチームに同点に追いつかれる結果に終わった。
(15) Aチームが終了直前Bチームに同点に追いつかれた結果、自動的にCチームの優勝が決まった。
(16) Aチームが終了直前Bチームに同点に追いつかれたため／ので、自動的にCチームの優勝が決まった。

4-3 名詞修飾節のタイプと連用節（副詞節・並列節）の関係

4-3-1 先行研究における名詞修飾節分類の対応関係

寺村(1975～78)	益岡(2000)	加藤(2003)	大島(2010)
「内の関係」	⇒ 「 内の関係 」	⇒ 「名詞修飾表現を文に開けるもの」	⇒ 「内の関係」
「外の関係」	⇒ 「 内容節 」	⇒ 「命題内容を表す名詞」	⇒ 「同格連体名詞」
(ふつうの内容補充)			
「外の関係」	⇒ 「 縮約節 」	⇒ 「位置関係を表す名詞」	⇒ 「 相対名詞 」
(相対的補充)	⇒ 「 縮約的修飾表現 」(益岡(2002))	⇒ 「随伴物(原因・過程・結果)を表す名詞」	⇒ 「 因果名詞 」
	⇒ 「 相対性修飾節 」(益岡(2009))		⇒ 「 感情名詞 」

※今後本発表で用いる用語は青字で示した「内の関係」「内容節」「相対性修飾節」に統一する。

4-3-2 名詞性接続成分のタイプ(4-3-1)と構成する節の種類(3-2)

○「内の関係」⇒ なし

(“短絡”は可能性あり) ex. 米子に泊まった朝に、帰国の途についた。(⑨時)

○「外の関係(内容節)」⇒ ①条件 ②原因・理由 ③逆条件 ④逆原因 ⑤目的

⑥動機・前提 ⑦同時進行 ⑧様態 ⑨時 ⑩逆接 ⑪立場・方向性

○「外の関係(相対性修飾節)」⇒ ⑦同時進行 ⑨時 ⑪順接 ⑫並列・対比 ⑬反応・代償

5 用例の検証

5-1 名詞性接続成分の捉え方

5-1-1 接続成分としての働きに注目した研究

I 村木(2007)

「{擬似連体節+従属接続詞} → 副詞相当節 = 連用節(状況節)」

村木(2005a)(2005b)「擬似連体節をうける従属接続詞」

統語論的カテゴリー(主語の存否、時間・空間的限定等)と形態論的カテゴリー(テンス・肯否・ムード等の有無)によるチェック(「⑦同時進行, ⑨時」に該当) ⇒ 従属節の階層構造へ

II 田中(2004)①~⑬に該当する「名詞性接続成分」を網羅的に分類・列挙

(分類の枠組みは本発表とは異なる)

田中(2010)「擬似的な連体節による従属接続成分」について、

「Nデ」「Nニ」「N(無格)」の形に着目して類義表現を記述(①~⑬の範囲にほぼ該当)

5-1-2 底の名詞の性質に注目した研究

I 金(1989)

「内容補充」「内容補充又は相対補充」「相対補充」となる名詞を分類列挙

「トイウ」介入の可否と意味環境(「抽象的な概念」「具体的な動作」, 「疎遠」対「親密」, 「類型としての例示」対「個別的事象としての提示」)から「トイウ」の機能を分析

II 丹羽(2011)

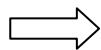
「内容補充のみ」「相対補充のみ」「相対補充と内容補充(「独立型」と「重なり型」)」となる名詞を分類列挙(p. 136~137の[表2][表3])

○名詞の意味機能と連体修飾のタイプ([表2][表3]より)

・相対補充の「位置関係」「量的関係」⇔「相対補充のみ」を構成するタイプ

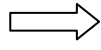
・相対補充の「随伴関係」のうち

〈結果〉
〈側面(属性、評価)〉
〈範列〉



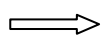
「相対補充のみ」を構成するタイプ、もしくは
「相対補充と内容補充」(「独立型 or 重なり型」)を
構成するタイプ

〈原因(理由、判断の根拠)〉
〈寄与(反寄与)〉〈反応〉



「相対補充と内容補充」(「独立型 or 重なり型」)を
構成するタイプ

・(発話・思考・事柄)



「内容補充のみ」を構成するタイプ

5-1-3 丹羽(2011)の「独立型」と「重なり型」

○「独立型」

a 調査プロジェクトが始まったいきさつは? 〈原因〉

b 単館系で細々と公開され、ロコミで広がったいきさつがあった。〈内容〉

c 少しでも快適に過ごす方法をご紹介します。〈寄与〉

d 警視庁がトラックの進路に捜査員を張り付けていく方法で追跡し、~ 〈内容〉

○「重なり型」

e 北朝鮮高官を米国に招請する交渉をしていることを明らかにした。〈寄与〉

f これまで見てきたリーダーは何でも頼れる安心感があった。〈結果〉 (例文は丹羽(2011)より)

5-1-4 丹羽(2011)の分類と名詞性接続成分のタイプ(3-2)との対応

※3-2で挙げた名詞性接続成分のうち、丹羽(2011)の[表2][表3]にも挙げられている名詞のみ

を抽出してその対応関係を示した。

○相対補充のみ

「位置関係」(場所・時間) ⇒ ⑨時「前(に)・あと(で・に)」

(場所 ex. 彼が座った横に彼女は立った。)

「量的関係」(部分・積「一部・倍・大半」等) ⇒ 該当なし

ex. 集まった大半が 20 代の青年だった。

「随伴関係」〈結果〉⇒ ②原因・理由「おかげで・せいで」

⑨時「はずみに・はずみで・拍子に」

〈範列〉⇒ ⑫並列・対比「一方(で)」

○内容補充のみ(発話・思考・事柄) ⇒ ②原因・理由「疑いで」

○相対補充と内容補充(「独立型」)

「随伴関係」〈原因〉⇒ ⑬反応・代償「証に・証拠に」

②原因・理由「理由で」

〈寄与(反寄与)〉⇒ ⑤目的「目的で」

⑥動機・前提「条件で」

〈結果〉⇒ ⑧様態「感じで」

⑪順接「結果・果てに」

⑬反応・代償「報いで・罰に(として)」

〈反応〉⇒ ⑬反応・代償「お返しに・記念に・お祝いに」

⑦同時進行「ついでに」

〈側面〉⇒ ⑭立場・方向性「意味で」

〈範列〉⇒ ⑫並列・対比「半面・裏で」

○相対補充と内容補充(「重なり型」)

「随伴関係」〈寄与(反寄与)〉⇒ ⑤目的「約束で」

⑥動機・前提「覚悟で・思いで」

〈結果〉⇒ ⑤目的 ⑥動機・前提「思いで」

⑧様態「気持ちで」

〈反応〉⇒ ⑬反応・代償「お礼に」

〈側面〉⇒ ⑧様態「様子で・顔つきで」

5-2 相対性修飾節(相対補充)と内容節(内容補充)

※5-1-4で対応関係を示した、丹羽(2011)の[表2][表3]掲載の名詞性接続成分について、ここでは具体的な用例を用いて検証する。(表に不掲載の関連表現については、随時 cf. の形で補足的に示す。)なお、以下に示した例文の番号は、本稿後半部 p.9~13 の用例集の例文番号に従う。

5-2-1 相対性修飾節(相対補充)のみの名詞から成る名詞性接続成分

○内容節は構成できない名詞(「という」挿入不可) ⇒ 「相対節」のみを構成する

「随伴関係」〈結果〉②原因・理由「おかげで・せいで」 例文：p.9(22)(23)(24)

cf. 「ことで・ことから」(内容節)・「手前」(相対節)

例文：p.9(20)(21)(25)

⑨時「はずみに・はずみで・拍子に」(相対節) 例文：p.12(96)(97)

cf. 「帰り・そばから・矢先」(相対節)・「留守に」(相対独立?)

例文：p.11~12(93)~(95)(98)

〈範列〉⑫並列・対比「一方(で)」(相対節) 例文：p.10(54)~(58) “同時進行→対比”

5-2-2 内容節(内容補充)のみの名詞から成る名詞性接続成分

○相対性修飾節は構成できない名詞(「という」挿入可) ⇒ 「内容節」のみを構成する

(発話・思考・事柄) ②原因・理由「疑いで」(内容節) 例文：p.9(29)(30)

cf. 「廉(かど)で」(内容節) 例文：p.9(31)(32)

⁷ 「といった」形式も同様に扱う。

5-2-3 相対性修飾節（相対補充）・内容節（内容補充）独立型の名詞から成る名詞性接続成分

○相対性修飾節（「という」挿入不可）と内容節（「という」挿入可）が独立して存在？

⇒「という」の有無にかかわらず、名詞によって相対性修飾節か内容節かのどちらかを構成する

〈原因〉⑬反応・代償「証に・証拠に」（相対節） 例文：p. 12～13(123) (124) (119) (120)

“(124) (120)は「という」挿入可だが相対節”

cf. 「しるしに」（相対節） 例文：p. 13(121) (122)

〈結果〉⑪順接「結果・果てに」（相対節） 例文：p. 12(101) (102) (103)

cf. 「あげく・すえに」（相対節） 例文：p. 12(99) (100)

⑬反応・代償「報いで・罰に(として)」（相対節） 例文：p. 12(117)

例文：チャングムはおきてを破った罰として勉強をさせてもらえなくなる。

〈反応〉⑬反応・代償「お返しに・記念に・お祝いに」（相対節）

例文：p. 12(110) (111), p. 13(125) (126) (127)

cf. 「見返りに・仕返しに・腹いせに」（相対節） 例文：p. 12(113)～(115) (116) (118)

⑦同時進行「ついでに」（相対節） 例文：p. 10(60)～(66)

〈範列〉⑫並列・対比「半面・裏で」（相対節） 例文：p. 12(106) (108)

cf. 「反面・他方で・陰で」（相対節） 例文：p. 12(104) (105) (107) (109)

“(105)は「という」挿入可だが相対節”

〈原因〉②原因・理由「理由で」（内容節） 例文：p. 9(26) (27) (28)

〈寄与(反寄与)〉⑤目的「目的で」（内容節） 例文：p. 10(42) (43)

⑥動機・前提「条件で」（内容節） 例文：p. 10(50)

〈結果〉⑧様態「感じで」（内容節）

例文：ひき肉と野菜がなじむように、タネは空気をふくませる感じで、手でよく混ぜる。

〈側面〉⑭立場・方向性「意味で」（内容節） 例文：p. 13(136) (137)

cf. 「立場で・視点で・方向で・形で」（内容節） 例文：p. 13(128)～(134)

5-2-4 相対性修飾節（相対補充）・内容節（内容補充）重なり型の名詞から成る名詞性接続成分

○相対性修飾節（「という」挿入不可）と内容節（「という」挿入可）が重なる？

⇒「という」の有無にかかわらず、内容節の構成に偏る

〈寄与(反寄与)〉⑤目的「約束で」（内容節）

例文：おとみはわけあって一生笹川で働く約束で金も工面しているのにな。

⑥動機・前提「覚悟で」（内容節） 例文：p. 10(49)

〈結果〉⑤目的 ⑥動機・前提「思いで」（内容節） 例文：p. 10(45) (48)

cf. 「一心で」（内容節） 例文：p. 10(44) (46) (47)

⑧様態「気持ちで」（内容節）

例文：腕と背すじを上には伸ばす気持ちでかかとを床につけたままに足を肩幅より広めに開いてまっすぐに立ちます。

〈側面〉⑧様態「様子で・顔つきで」（内容節）

例文：どちら側にひざまずくべきか決めかねている様子でしばしためらっていたが、不意に心を決めると正しい位置に着いた。

「ついでに…」鮎子がたくらみを秘めた顔つきで言う。

cf. 「格好で」 p. 11(81)～(87)

〈反応〉⑬反応・代償「お礼に」（相対節） 例文：p. 12(112)

5-2-5 考察とまとめ

○・相対性修飾節（相対補充）のみの名詞から成る名詞性接続成分⇒「相対節」のみを構成

・内容節（内容補充）のみの名詞から成る名詞性接続成分⇒「内容節」のみを構成

・相対性修飾節（相対補充）・内容節（内容補充）独立型の名詞から成る名詞性接続成分

⇒「という」の有無にかかわらず、名詞によって相対性修飾節か内容節かのどちらかを構成

・相対性修飾節（相対補充）・内容節（内容補充）重なり型の名詞から成る名詞性接続成分

⇒「という」の有無にかかわらず、内容節構成に偏る

○底の名詞としての性質と名詞性接続成分としての性質には異なりが見られる。

ex. 「理由」 — 底名詞としては「相対補充と内容補充（独立型）」
⇒相対性修飾節（「という」挿入不可）と内容節（「という」挿入可）の両方が可能
名詞性接続成分の場合、「という」の有無にかかわらず内容節のみ構成
(p. 4(26) (27) (28) 参照)

ex. 「証拠」 — 底名詞としては「相対補充と内容補充（独立型）」
⇒相対性修飾節（「という」挿入不可）と内容節（「という」挿入可）の両方が可能
名詞性接続成分の場合、「という」の有無にかかわらず相対性修飾節のみ構成
(p. 7～8(119) (120) 参照)

○名詞に後接する助詞の性質が名詞性接続成分の機能と関係している。

- ・「名詞＋に」型⇒相対性修飾節が多い←位置・比較・取り合せ・セットを示す「に」の性質
- ・「名詞＋で」型⇒内容節が多い←付帯状況・手段の「で」の性質
(cf. 中止形を表すコピュラの「で」は別物と見た方がよい)

6 問題点と今後の課題

- 名詞性接続成分の分類及び意味・機能の見直し——「時」「同時進行」の再分類など
- 「という」の有無と名詞性接続成分の機能との関係——「相対性修飾節」か「内容節」か、他の意味・機能が生じているか
- 名詞の文法化の程度と接続成分としての機能の関係——底名詞の性質、底名詞に後接する助詞の性質、名詞修飾節と補足節の関係も含めて
- 主文述語の階層構造と従属節の内部構造から見た、各副詞節の位置付け——形態論的・統語論的カテゴリーの有無を踏まえて
- コーパスを用いた定量的分析——内省と使用のギャップ

<参考文献>

- 太田陽子(2000)「「トイウ」を用いた連体修飾表現について」(『東京大学留学生センター紀要』10)
- 大島資生(2010)『日本語連体修飾節構造の研究』ひつじ書房
- 加藤重広(2003)『日本語修飾構造の語用論的研究』ひつじ書房
- 金銀淑(1989)「連体修飾構造における「トイウ」の意味機能」(『国語学研究』29 東北大学)
- 国立国語研究所〔山崎誠・藤田保幸〕(2001)『現代複合辞用例集』
- 高橋美奈子(2006)「節による名詞修飾表現の分類の一試案」(『日本語文法の新地平3 複文・談話編』くろしお出版)
- 田中寛(2004)『日本語複文表現の研究 接続と叙述の構造』白帝社
- 田中寛(2010)『複合辞からみた日本語文法の研究』ひつじ書房
- 寺村秀夫(1975～78)「連体修飾のシンタクスト意味—その1—～その4—」
(『日本語・日本文化』4～7号 大阪外国語大学留学生別科)
- 丹羽哲也(2010)「相対補充連体修飾の構造—準体節との対応—」(『日本語の研究』6-4)
- 丹羽哲也(2011)「連体修飾「外の関係」から見た名詞の一分類」(『日本語文法学会 第12回大会発表予稿集』)
- 野田尚史(2002)「単文・複文とテキスト」(『日本語の文法4 複文と談話』 岩波書店)
- 本田 啓(1997)「連体修飾を受けて副詞句を構成する名詞の用法についての研究」
(『ソフトウェア文書のための日本語処理の研究13』情報処理振興事業協会)
- 前田直子(2009)『日本語の複文——条件文と原因・理由文の記述的研究』くろしお出版
- 益岡隆志(2000)「連体修飾における縮約節」(『日本語文法の諸相』くろしお出版)
- 益岡隆志(2002)「複文各論」(『日本語の文法4 複文と談話』 岩波書店)
- 益岡隆志(2009)「連体節表現の構文と意味」(『言語』38-1 大修館書店)
- 松木正恵(1990)「複合辞の認定基準・尺度設定の試み」(『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』2)
- 村木新次郎(2005a)「擬似連体節をうける従属接続詞—「かたわら」と「一方」(で)の用法を中心に—」
(『同志社女子大学大学院文学研究科紀要』5)
- 村木新次郎(2005b)「〈とき〉をあらわす従属接続詞—「途端(に)」拍子に」「やさき(に)」などを例として—」
(『同志社女子大学 学術研究年報』56)
- 村木新次郎(2007)「日本語の節の類型」(『同志社女子大学 学術研究年報』58)
- 森田良行・松木正恵(1989)『日本語表現文型 用例中心・複合辞の意味と用法』アルク

◇用例集（用例の収集には、「KOTONOHA 現代日本語書き言葉均衡コーパス」を用いた。）

①条件

- (17)「できるかもしれない」という方向に、ほんのわずかな意識を変え、トレーニングをすることで、だれもが犬やネコと対話できるようになります。（小原田泰久『犬と話ができる！』）
- (18)京香が部屋に飛び込んで行って、犯人はあなたですか、などとやられた日には、後のフォローが大変になる。（秋月涼介『月長石の魔犬』）
- (19)「未亡人ならいいですよ。実は前の旦那ときた日には、大変な詐欺師なんです。村田銀次郎といって一福原先生もご存じでしょう？」（高木彬光『神津恭介の回想』）

②原因・理由

- (20)誰にも言えなかったことを、総て話したことで、随分と精神的には楽になっている。（新田一実『花を愛でる人』）
- (21)しかし、短所もある。それは、公共投資の性質上、建設業などに資金が集中されることから、資源配分と所得分配に歪みが生じがちな点である。（山中章『構造改革論の誤解』）
- (22)霊性を高める修行を毎日欠かさずに行っているおかげで、当初に比べると苦痛はさほどひどいものでなくなってきた。（結城光流『鏡の檻をつき破れ』）
- (23)頭は睡眠不足でぼんやりとしていたし、長く車に乗っていたおかげであちこちの筋肉が痛んだ。（村上春樹『海辺のカフカ』）
- (24)ベンチに腰をおろして、冷たいビールを流しこむ。釣部に付き合うせいで、ちかごろは、アキも、アルコールに強くなっている。（太田蘭三『謀殺水脈』）
- (25)だけど、馬は走ろうとはしなかった。自分は馬に乗れます、ベテラン騎手ですと言った手前、恥ずかしくて、顔から火が出た。（畑正憲『ムツゴロウの動物交際術』）

【理由で】【疑いで】【廉(かど)で】

- (26)資産運用の環境が悪い、あるいは自信がないといった理由で、年金資産運用を回避することはできないのです。（久保知行『わかりやすい企業年金』）
- (27)～ブランド品が、もう生産、販売もされていない等などの、希少な存在になっている理由で、見直されて、思いもよらぬ高値になっていることを、Aさんは知ることになる。（前畑民太郎『あなたの知的パートナー「P パーツ誕生」』）→「希少な存在になっているという理由」
- (28)しかし、子どもの救急外来を受診する理由で一番多い「発熱」のうち、ほとんどの場合で特別な治療の必要がありません。（『広報とよた』2008年04号）→×「受診するという理由」
- (29)昨年11月、市販のゲームソフトや映画ファイルを不特定多数に送信した疑いで、二人のWinnyユーザーが逮捕されている。（『週刊現代』2004年5月29日）
- (30)～はよく知られているように、昭和五年（三三歳当時）日本共産党に資金を提供したという疑いで検挙され、豊玉刑務所に拘留されている。法政大学教授も辞任せざるを得なかった。（石川弘義『出版広告の歴史』）
- (31)しかし、ソフィーがパリに戻ったとき、ラ・オリエはナポレオンに対する陰謀を企てたかどで指名手配になっていた。（鹿島茂『パリの王様たち』）
- (32)一六二二年、石垣島に漂着した異国船の人達と親しくしたという廉で、宮良頭が極刑に処せられたため、琉球王府はキリシタンの取締に神経をとがらせた。（緒形隆司『琉球王朝の光と陰』）

③逆条件

- (33)いんぎんな語句は相手を侮辱するようなものと化し、たとえ字義どおりに正確に訳出された場合でも、原義とは似ても似つかぬ感触を与えることに相成る。（エドウィン・O・ライシャワー/國弘正雄『ザ・ジャパニーズ』）

④逆原因

- (34)しかし、鑑定書はそのまま公表できないため、学術的に書きなおして学会誌へ投稿したところが、いつまで待っても掲載されないのである。（森弘太『三池炭鉱』）
- (35)これを辻善之助博士（当時史料編纂所長）が鑑定して下さったところが、いずれも真筆であると考えられるとことであった。（中村元『学問の開拓』）
- (36)ベッケンバウアーは70年メキシコ大会、試合中悪質なファールで肩を脱臼。本来担架で病院へ行くところを、彼は肩をテーピングで固定してプレーを続行、顔色ひとつ変えず延長まで闘い抜いた。（サッカー科学特捜班『3時間で自慢できる空想科学サッカー読本』）
- (37)試験勉強を始めるつもりが、つい机の掃除に一晚かけてしまうような人にとってもお勧めです。（上大岡トメ『キッパリ！』）
- (38)七歳の男の子が近くの川で死んだ。橋ぎわの公園で遊んでいるはずが、姿が見えない。夕方、近所の者も加わって探したところ、すぐわきの水に沈んでいた。（『中央公論』平成15年12月号）
- (39)単純に言うと、コストであれば本当は80万円で済ませられるものを、90万円かかると報告してくるのである。（浅沼潤『指示ができる上司・指図しかできない上司』）
- (40)私のばあい、書籍については本棚にかなり厳密なオーダーで並べるくせに、洋服ダンスの中はぐちゃぐちゃだ。（松岡正剛『知の編集工学』）
- (41)経営陣を始め全社員が必死に努力している割に、それが結果に結実せず、業績低迷が長く続いた。（『週刊ガ

スト』2005年4月29日号（第37巻）

⑤目的

- (42)これに対応し、また修学旅行などの学習の場を提供する目的で、日本初となる温泉科学博物館が昭和32年に設置されました。（『広報のぼりべつ』2008年04号）
- (43)実は、福利厚生を充実させるという目的で、グループの生命保険会社にDさんの個人データが会社から渡されていたのだ。（岡村久道/鈴木正朝『これだけは知っておきたい個人情報保護』）
- (44)明るい絵にしなくては、先生にほめてもらえない。私は先生にほめてもらいたい一心で、絵を描いていた。（松本キミ子『三原色のフィールドノート』）
- (45)しかし、ここを、わが使命の天地と定め、アフリカ全土に題目を染み込ませる思いで、唱題を開始した。（池田大作『新・人間革命』）

⑥動機・前提

- (46)～子どもの「遊びたい」という気持ちが集中力につながります。子どもは遊びたいいっしんで、すこしでも早く終わらせようとするのです。（小宮山博仁『わが子を算数大好きに変える本』）
- (47)「ニキに魅せられ、その世界を一人でも多くの人に知ってもらいたい」という一心で、コレクションを続け、美術館設立を実現させた。（『読売新聞』2001/7/12 夕刊）
- (48)そんな僕の要求に、彼らも「最高の舞台を作りたい」という思いで、応えてくれてきた。心から礼を言いたい。（熊川哲也『メイド・イン・ロンドン』）
- (49)秋田ほど雪は無いが、北風は骨を刺すばかり、水沢から一里半の闇の雪路を強行軍する覚悟で、駅に降りた時には既に八時に近かった。（松平斉光『祭』）
- (50)あなたを動かす主義や問題、課題に寄付する条件で一〇〇万ドルの贈り物をもらったとしたら、そのお金をどのように使うだろうか？（ディック・J・ライダー/枝廣淳子『ときどき思い出したい大事なこと』）

⑦同時進行

- (51)展覧会には、言うまでもなくご夫妻で出席された。終わって〈切られ與三郎〉をお返しするかたがた、注文を受けていた根付を納めにうかがったのが亡くなられる一週間前だった。（高円宮殿下伝記刊行委員会『高円宮憲仁親王』）
- (52)そのころ私は、新人賞に応募するかたわら、神田駿河台下のある出版社に、足繁く原稿を持ちこんでいた。（『小説すばる』2002年5月号）
- (53)医者とは、自分の作った化粧品を診療所で処方するかたわら、錬金術師の作る化粧品は正当でないから使うなど患者に忠告していたのです。（オーブリー・ハンプトン/大滝百合子『本物の自然化粧品を選ぶ』）

【一方(で)】

- (54)そんなことをにやにやと考える一方で、右手はずっと何かを口に運んでいた。（園山真希絵『食べてキレイ。』）
- (55)細かな滴の集まりが星降る夜空を映す一方で、談話する四人の風景とキャンドルを透かした。（岡田奈子『フォルティッシモ』）
- (56)つまり、「ティ」や「ディ」は、それが外来語用として定着していく一方で、それが外国語らしさを演出するという機能を失っていったのである。（秋月 高太郎『ありえない日本語』）
- (57)今後、女性の社会進出が増える一方、高齢化、少子化、核家族化など社会構造が大きく変化することが予想される。（佐藤史郎『女性の起業が成功する秘訣』）
- (58)百元ショップがにぎわい、発泡酒が売れる一方、「億ション」も即日完売した。（『北海道新聞』2001/12/13 朝刊）
- (59)例えば収入に基づいて命の価値を算定した場合、高収入の人の命の価値が高く計算される一方で、専業主婦や退職者の命の価値はゼロになってしまう。（『読売新聞』2001/5/20 朝刊）

【ついでに】

- (60)「ほうか。なら、そこにいるついでに、おれの留守の間、店を見てくれねえか？」（ポール・スチュワート/唐沢則幸『嵐を追う者たち』）
- (61)お得意様に他の商品を配達するついでに「さおだけ屋」を営業している金物屋もあるらしい。（山田真哉『さおだけ屋はなぜ潰れないのか？』）
- (62)キャンディーをフィルムから取り出して口に入れたら、その手を戻すついでにフィルムの皺を伸ばし、できれば小さく畳んで、ゴミ箱に捨てる。（重松清『日曜日の夕刊』）
- (63)父さんはそう言って、体を洗うついでに、いつもその首飾りを、ていねいに石けんで洗っていた。（加藤純子『勾玉伝説神かくし事件のなぞ』）
- (64)支払っているのよ、というのを主張してはいけない。たとえば化粧室に立つついでにクレジットカードを店の人に渡しておく。そしてさりげなく支払いをすませてしまう。（吉元由美『いつも、彼女が好かれる理由』）
- (65)まだ残暑はきびしい。付添婦さんの仕事は肉体労働だから、入浴は欠かせない。銭湯へ行くついでに夕食をすませてきたり、お弁当を買ってきたりする。（青柳友子『お嬢さん探偵ハルミ危機一髪』）
- (66)古風なカバラの宇宙論を紹介したついでに、蛇足として、こんな感想をつけ加えておく。（澁澤龍彦『黒魔術の手帖』）
- (67)ボクが小学校に上がり、ランドセルを背負って下校する道すがら、いつも商店街や駅前、ばあちゃんの姿を

- 探しながら帰った。(リリー・フランキー『東京タワー』)
- (68)滝沢は美麗を出た足で、風林会館の脇の薄汚れた雑居ビルに向かった。(馳星周『鎮魂歌』)
- 【たびに】**
- (69)懐中電灯の光が天井や壁にあてられるたびに、パッと花火が上がったように極彩色の壁画が浮かびあがる。(大高未貴『シルクロードがむしやら紀行』)
- (70)いやに決まっている。悔しいに決まっている。同世代の者の出世話を聞くたびに、どれだけ胃壁の粘膜を傷つけたことか、眠れぬ夜を過ごしたことか...。(新堂冬樹『カリスマ』)
- (71)会長や頭取が来るたびに、林と曾根は半年前から準備を始める。(黒木亮『トップ・レフト』)
- ⑧様態**
- 【くらい(に)】【つもりで】**
- (72)母との関係を思い出したとき、どこにこれほどの涙があるのだろうというくらい、涙がとめどなく流れました。(中丸薫『闇の世界権力をくつがえす日本人の力』)
- (73)二十年たってからも、事件を再調査しようとした佐々木を殺した相手なのだ。放火するぐらい、平気だったに違いないのである。(西村京太郎『十津川警部の挑戦』)
- (74)それはもう、各駅停車から新幹線に乗り換えたくらい、すらすらとアイデアが出てきました。(さとう秀徳『画期的成果が上がった!』)
- (75)「おまえがレンになったつもりで考えるんだな。レンだったらどうするか」(恩田陸『上と外』)
- (76)～、そうだ、見よう見真似で人並みになろうと懸命にやって来たつもりで、結局俺は傘のさしかたも箸の持ちかたも覚えずにこんな歳まで来てしまったのかもしれない～(松浦寿輝『花腐し』)
- (77)こうしたその労をねぎらうべく夕食を供するつもりで、わたしはその夜、サリムをパーム・ビーチ・ホテルへと案内した。(松下周二/守野庸雄『語りつぐ人びと・アフリカの民話』)→⑤目的
- 【調子で】【態度で】**
- (78)「ああ、わかってる、わかってる」山田は、子どもをあやす調子でうなずきながら、松前の肩をさすった。(林葉直子『恋のアリバイをくずせ!』)
- (79)「じゃーしばしの別れだ、ミーランよ」といった調子で、皆それとなく手など振って、ゆっくりゆっくり前進する。(長澤和俊『楼蘭古城にたたずんで』)
- (80)田村は、授業開始時間のぎりぎりに校門に入るという態度で、校長から叱責され担任を替えられることを目論んだが、校長のほうがうわてであった。(高谷清『異質の光』)
- 【格好で】**
- (81)こざっぱりした黒のTシャツに色あせたジーンズという格好で、すり減った黒革のブーツを履いている。腕には鮮やかな黄色い薔薇の花束を抱えていた。(漆原麗『彼の名は言えない』)
- (82)そのとき、ホエールボートの漕ぎ手ジョーンズは、フォアトップスルヤードにはりつく格好で、船の進行方向を見やっていた。(鈴木光司『楽園』)
- (83)そして通路側は、隣室と半分ずつスペースを出し合った格好で、二室共用の洗面・シャワールームになっている。(中津文彦『ジンギスカン殺人事件』)
- (84)子どもと妻の両親の“連合軍”から邪魔もの扱いをされるようになり、結局、追いだされる格好で離婚させられたケースがあった。(斎藤茂男『お子さま戦争』)
- (85)親とはゼネレーション・ギャップがある。年子の弟は、同じ感覚で話せる。弟に励まされる格好で、私は家に帰る弟と別れ、大林監督との打ち合わせに出かけた。(相原勇『ありがとう』2003年9月6日号)
- (86)株価は業績の好調と銘柄の人気を受ける格好で堅調な展開が続いたが、昨年10月には全体相場の下落にあわせる格好で、166500円まで下押し動きに。(『Yahoo!ブログ』2008)
- (87)新石垣空港の建設地点を移す格好で物事を進めたいということについては、私どももよく知っております。(『国会会議録』第118回国会1990)
- (88)国安は狼狽し、蜘蛛の巣でも払いのけるしぐさで手をふりながらあとずさった。(杉本苑子『夜叉神堂の男』)
- (89)待ち合わせの相手を求める表情で穰はゆっくりと視線を周囲にめぐらせる。(大藪春彦『狼の追跡』)
- (90)加藤はひそかに自負している口ぶりで、「この技術がアメリカで破竹の勢いだというのに、日本人はあまりに鈍感すぎる。～」(秋元浩/加藤郁之進/岸宣仁/森下竜一『ゲノム敗北』)
- ⑨時**
- (91)作ったはずのファイルがなくなってしまったというとき、2つのケースが考えられます。(高作義明『よくあるパソコントラブル382解決!!便利帳』)
- (92)もう宿代も払い港へ下ろうかという時、小母さんが黙って無色透明の液体が詰まった小瓶を差し出した。(斎藤潤『日本《島旅》紀行』)
- (93)俺は当時つき合っていた彼女に会いに行った帰り、友達から借りたバイクで走りなれたいつもの道を疾走していた。(古市佳央『君の力になりたい』)
- (94)「では、どうやって落ちてくるのだ」「雪は、作られるそばから、落ちてくるのさ」(『オール讀物』平成14年2月号)
- (95)これから楽ができると思った矢先、ショパンの母親が寝たきりとなり夫婦で面倒を見ることになった。(吉川

潮『わが愛しの芸人たち』)

(96)晴美はよろけた拍子に、ちょうど、会場へ入って来たばかりの一人の婦人と衝突してしまった。(赤川次郎『三毛猫ホームズのびっくり箱』)

(97)一人は軽くかわされて急所を突かれて倒れ、最後の一人は、あかねに体をかわされたはずみに松の木の根につまずいて倒れた。(新田次郎『武田信玄』)

(98)あるとき園城寺の僧兵が比叡山を焼きにいった留守に、ちょうど比叡山のほうから焼きにきて、両方とも焼けたという事件まで起こしています～(五来重『霊場巡礼』)

⑪順接

(99)美しい、情のある女だったが、連日の宴会遊蕩のはてに、若者は無一文になったあげく、仮母のたくらみで女と引きはなされてしまった。(辻原登『翔べ麒麟』)

(100)そこで三年もの長きにわたり謹慎生活を送ったすえに、明治五(一八七二)年六月、島田は赦免されて娑婆にもどった。(岳真也『剣侠』)

(101)ネルーはマルクス主義に傾斜していった結果、宗教への批判をも一層強めていった。(長崎暢子『インド国境を越えるナショナリズム』)

(102)とくに、労働者が物価の上昇を予想して早めに賃金の引上げを要求する結果、物価が上昇しても企業の収益が増加しなくなったといわれている。(呉文二/島村高嘉『金融読本』)

(103)府中で五本の指に数えられる分限者の一人息子に生まれながら、放蕩のかぎりを尽くした果てに、夜逃げ同様に江戸へ出てきたのだ。親戚縁者には分限者が何人もいた。(池田みち子『池田みち子の東海道中膝栗毛』)

⑫並列・対比

(104)現代医療には欠かせない薬の一つです。ひじょうによく効く反面、副作用が強いことを念頭に入れておくことが大切です。(種本康之『近視百科』)

(105)この「大骨→小骨方式」は、最初に大枠が示されているので意見を出しやすいといった反面、その枠にとらわれて大事な要因を見落とすおそれもあり、注意が必要である。(日本レクリエーション協会『レクリエーション・マネジメント』)

(106)保険診療の中心となる出来高払い、医師が必要と判断した治療を十分施せる半面、医療費が青天井で伸びる可能性がある。(『朝日新聞』2003/3/13 朝刊)

(107)しかし、ソフト開発費が増大しつつある他方で、パッケージプログラムの技術進歩により、これを適用する業種および業務の範囲が～(『中小企業白書』昭和57年版)

(108)豊かで平和でみち足りた雰囲気の小説が量産されている裏では、精神病者の暗い、依然として偏見と差別にまみれた現実があり、～(加賀乙彦『脳死・尊厳死・人権』)

(109)民間から皇室に入られ、新しい家族のあり方を示される陰で大変な苦労をされている—美智子さま世代はそこに自分を投影し、共感した。(『AERA(アエラ)』2004年5月3日・10日合併増大号)

⑬反応・代償

(110)頭でスリスリなでもらったお返しに、頭をぐいっと押しつけて、額にある臭腺を人の手にこすりつけています。(グウェン・ベイリー/近藤修『猫って、何考えてるの!?』)

(111)カードは添えられていなかったが、もちろんそれはサイモンがこのあいだ日記を見せるお返しにと約束した「キャンディの箱」だった。(ドディー・スミス/石田英子『カサンドラの城』)

(112)シーサーは昔、瓦職人が屋根の仕事をさせてもらったお礼に作ったものなのだそうです。(小澤典代『人がつなぐ暮らし、手が伝える大切なこと』)

(113)宗久は茶人であるが物欲がつよい。松嶋の茶壺を信長に献上した見返りに、訴訟にかこつけ義兄弟の武野宗瓦を没落させるよう、信長に頼んできた。(津本陽『下天は夢か』)

(114)10月に米朝枠組み合意が結ばれた。北朝鮮が核開発を凍結してNPTにとどまる見返りに、核開発をしにくい軽水炉を米国が提供する内容だった。(『朝日新聞』2002/11/18 朝刊)

(115)ヨーロッパの都心の古い街区に見られる作法だ。外壁を街路一杯まで張り出した見返りに、各棟は上から見ると「ロの字」型で、中庭を囲うこととなった。(松葉一清『信長燃ゆ』)

(116)「(爆弾のつくり方は)インターネットなどで学んだ」「高校時代にいじめられた仕返しに、同級生の実家に爆弾を仕掛けようとした」(『週刊朝日』2003年8月1日号)

(117)～、必ずロックワッシャーを使って確実に導通をとってください。筆者もこれをサボった報いでアースが浮き、予備テストの段階で異様な誤作動を起こし、～(『MJ無線と実験(AUDIO TECHNOLOGY MJ)』2002年10月号)

(118)一目惚れや片想いで相手を見初め、その想いが果たせなかった腹いせに危害を加える、といった事件がワイドショーを賑わせている。(阿木燿子『ちょっとだけ墮天使』)

【証拠に】【しるしに】【証に】

(119)たしかにこのアジサイの葉は大半が枯れ落ちており、それが七月である証拠に、すぐ隣り合った家の角に植わったハナミズキの木の葉が青々と茂っていた。(山本武臣『あじさいになった男』)

(120)国会の玄関では、自分が院内に入ったという証拠に、自分の名札を裏返す。(大下英治『慈愛のひと美智子皇后』)

- (121)～下根の場合、一四日の朝から墓へ出向き、水、花、米を供え線香をあげる。墓参りに来たしるしに細く切った半紙を木の枝に結ぶ。(和田健『牛久市史』)
- (122)母さんはドアのところで止まり、だれだかわかってほっとした顔になった。わかったという印にっこりして見せる。(アレックス・シアラー/金原瑞人『13ヵ月と13週と13日と満月の夜』)
- (123)巖藻かけ(いづもかけ)忌明けに、海で身体を清めた証に、海草を持ってお参りする慣わしがあるようです。(『Yahoo!ブログ』2008)
- (124)～こんどは、「自分たちは、百姓の余業として船渡しの仕事をしているのだ」という証に、検地帳の写しを藩役所へ提出した。(樋口和雄『信州の江戸社会』)
- (125)取材の日は、雑誌に掲載される記念に、家作りで一緒に苦労した友人たちにも写真に収まってもらいたいと、仲間を自宅に招待～(『自分でつくるキットハウス』2005・2006)
- (126)そのうち銀行で、クレジットカードの作成利用も勧められたので、20歳になった記念に、クレジットカードも作った。(池田真朗『法の世界へ』)
- (127)これから、大イベントの終わったお祝いに、何かおいしいものを食べに行こうって約束なの(風見潤『卒業旅行幽霊事件』)。
- ⑭立場・方向性**
- (128)～サミットの間じゅう、どちらかというと村山さんをエスコートする立場でずっと動いたらしいんです。(石原信雄/御厨貴/渡邊昭夫『内閣官房副長官石原信雄の2600日』)
- (129)では、広く国民の意見を聞くという立場で、パブリックコメントをぜひ実施していただきたいと思います。(『国会会議録』第154回国会2002)
- (130)国民の司法への参加という大きな改革である裁判員制度を根付かせる視点で、議論が深められることを期待する。(『西日本新聞』2003/11/8 朝刊)
- (131)さらに、生産部門に対しては「売れない商品をつくらせない」という視点で、小売店には「より効率のよい販売をする」という視点で整理した情報を提供します。(大島正武『販売促進部』)
- (132)～中皮腫の労災認定について、アスベストとの因果関係について医学的裏づけは求めない方向で労災の認定基準を見直す方針を言われました。(『国会会議録』第163回国会2005)
- (133)こうした日本の姿勢に国際社会からの非難が高まり、いわば外圧に押される形で、難民の受け入れを決定したのだ。(『暮しの手帖』2003年4月1日発行)
- (134)一九八五年改正により、すべての国民が国民年金に加入し、同額の基礎年金を支給されるという形で、給付の一元化がなされた。(堀勝洋『年金の誤解』)
- (135)同一の工事を再び発注し、国に二重払いさせた代金をだまし取った形で、労働局側のチェック体制の甘さにも批判が集まりそうだ。(『河北新報』2004/11/19 朝刊)→中止法
- (136)もし、どうしても報奨したいというのなら、提案した努力を誉める意味で、ささやかな褒賞品でも出せば、それで十分意を尽くしたことになる。(西堀榮三郎『ものづくり道』)
- (137)この考え方は、一般の財の消費に関して発達した経済学上の手法をそのまま応用できるという意味で、非常に便利である。(井伊雅子/大日康史『医療サービス需要の経済分析』)